

リコージャパン（東京都港区）は、物流業界へのアプローチを強化している。「リコー」といえば、コピー機をはじめオフィス用機器のイメージが強いが、現在は「オフィスだけじゃない」をキーワードに、ソリューション提案を強化。顧客の業種ごとに切り分けた事業部制に移行し、その一環として、物流・運送事業者向けにもメニューを充実させている。

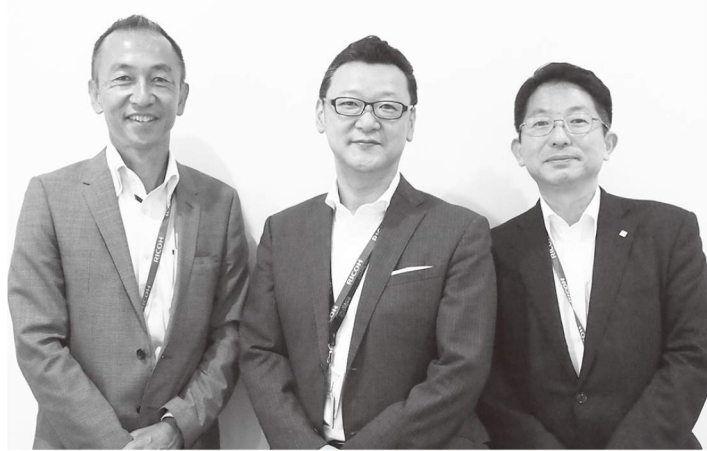
# 物流の現場に貢献

複合機やプリンターなどの画像分野を中心に、ITインフラやアプリケーションなど、幅広い事業領域を有する同社。物流業界へも多くのソリューションを提供してきた実績を持つ。

運転日報用に高速印刷可能なプリンターを導入することで、帰社集中時間の円滑な業務遂行やランニングコストの削減を実現。また、物流センターにデジタルサイネージ（電子看板）を設置し、勤務時間の異なる従業員への情報伝達に活用している。



「1点呼キーパー」



左から高橋リーダー、川上部長、宮城マネジャー

## 「1点呼キーパー」導入

る事例もある。他にも、物流センターへのLED導入や輸出入関連システムの開発など、多岐に渡るソリューションを提供してきた。

このほど、物流業界向けメニュー強化の一環として、テレニシ（大阪市中央区）とのアライアンスを開始。同社製の「1点呼キーパー」は、アルコール検知器メーカーのフィガロ技術と技術提携した運送事業者向けの点呼システムで、動作の軽さと操作の分かりやすさが特徴。点呼結果がデジタルでのデータ管

理が可能になり、帳票紛失のリスクも軽減されたという。リコージャパン流通・サービス事業部長の川上伸一郎は、「導入後に、土日の配送が増える年度末の繁忙期を迎え、物流の現場に貢献できたようだ」と話す。

今後は、これまで手がけてきた領域に加えて、「デジタルコ、ドラレコ、運転日報などのサービスごとに、ベンダーとのアライアンスを強化していく」（同社マーケティンググループの宮城寛マネジャー）とし、運送

「1点呼キーパー」

## リコージャパン テレニシとのアライアンス開始

事業向けに包括的なサービスを提供していく構え。特に、中堅・中小事業者向けの提案に注力する。同グループの高橋伸治リーダーは、「ITインフラからハード、そしてソリューションまで、幅広く提案できる。全国に同一レベルのサービス網を持つのも強み」と自信を見せ、「ベンダー各社の製品に、リコーの強みを乗せて提供できれば」と話す。

7月13、14日には、東京国際フォーラムで、リコーグループの製品やソリューションを展示する「Value Presentation 2016」を開催し、テレニシ製「1点呼キーパー」やOA機器の提供などを展示する。宮城マネジャーは、「最新技術なども展示する。運送事業者のみならず、ぜひ来場いただけると嬉しいです。川上部長は、「創業80周年を迎えるリコーを開催し、テレニシグループは、特殊用紙やOA機器の提供などを提供する。宮城マネジャーは、紙を中心とするコミュニケーションから、ICTを活用したデジタルコミュニケーションを増やし、企業のコミュニケーションに関する課題をさまざまな角度からサポートしていきたい」と意気込む。

（中田千秋）